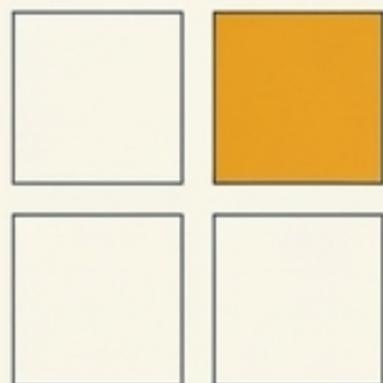


# 自律型AIエージェント 「Manus」を活用した 知財業務の変革

管理・事務処理から、  
事業を牽引する戦略的ドライバーへ



# エグゼクティブ・サマリー： 知財（IP）業務のパラダイムシフト



## 効率化の極致

先行技術調査や出願書類のドラフト作成にかかる時間を「数日・数時間」から「数分」へと劇的に短縮。定型業務の呪縛からの解放。



## 戦略の高度化

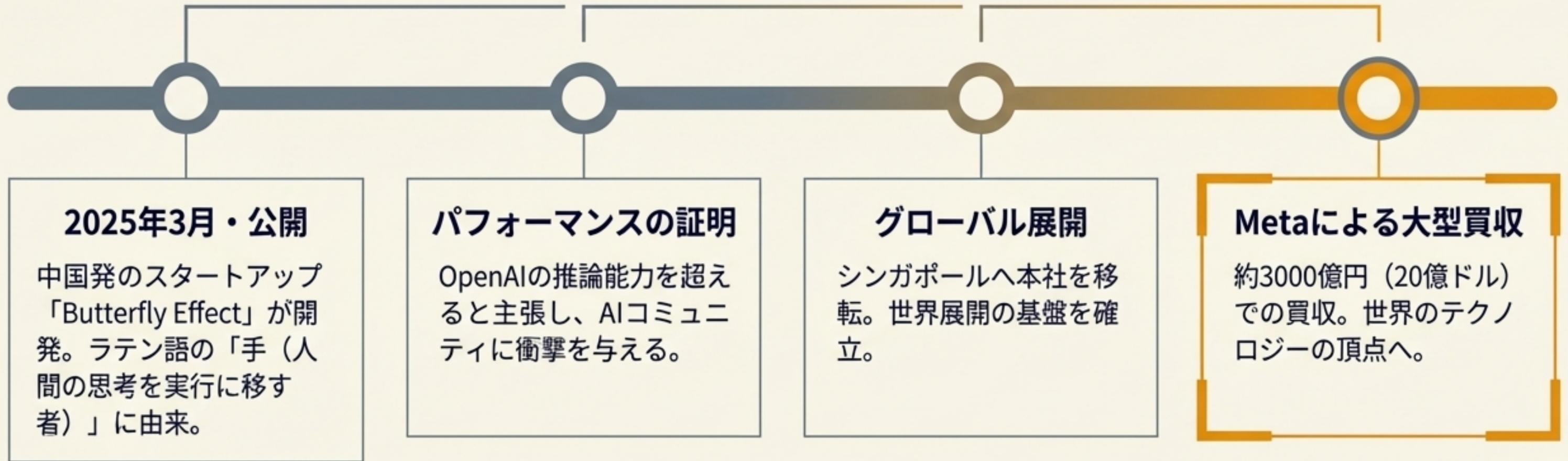
社内の非構造化データ (Slack, Teams等) を常時スキャンし、能動的に「発明の種」を発掘。競合の技術動向もリアルタイムで解析。



## 圧倒的な自律性

人間の監視を必要とせず、複雑なタスクを自己計画・実行する次世代AI。Metaが20億ドルで買収し、OpenAIの性能を超えると思われる頭脳。

# 自律型AI「Manus」の系譜と圧倒的ポテンシャル



最大のブレイクスルー：設定された目標に対し、人間の継続的な監視なしに自律的に計画を立て、複数ステップの複雑なタスクを完遂する能力

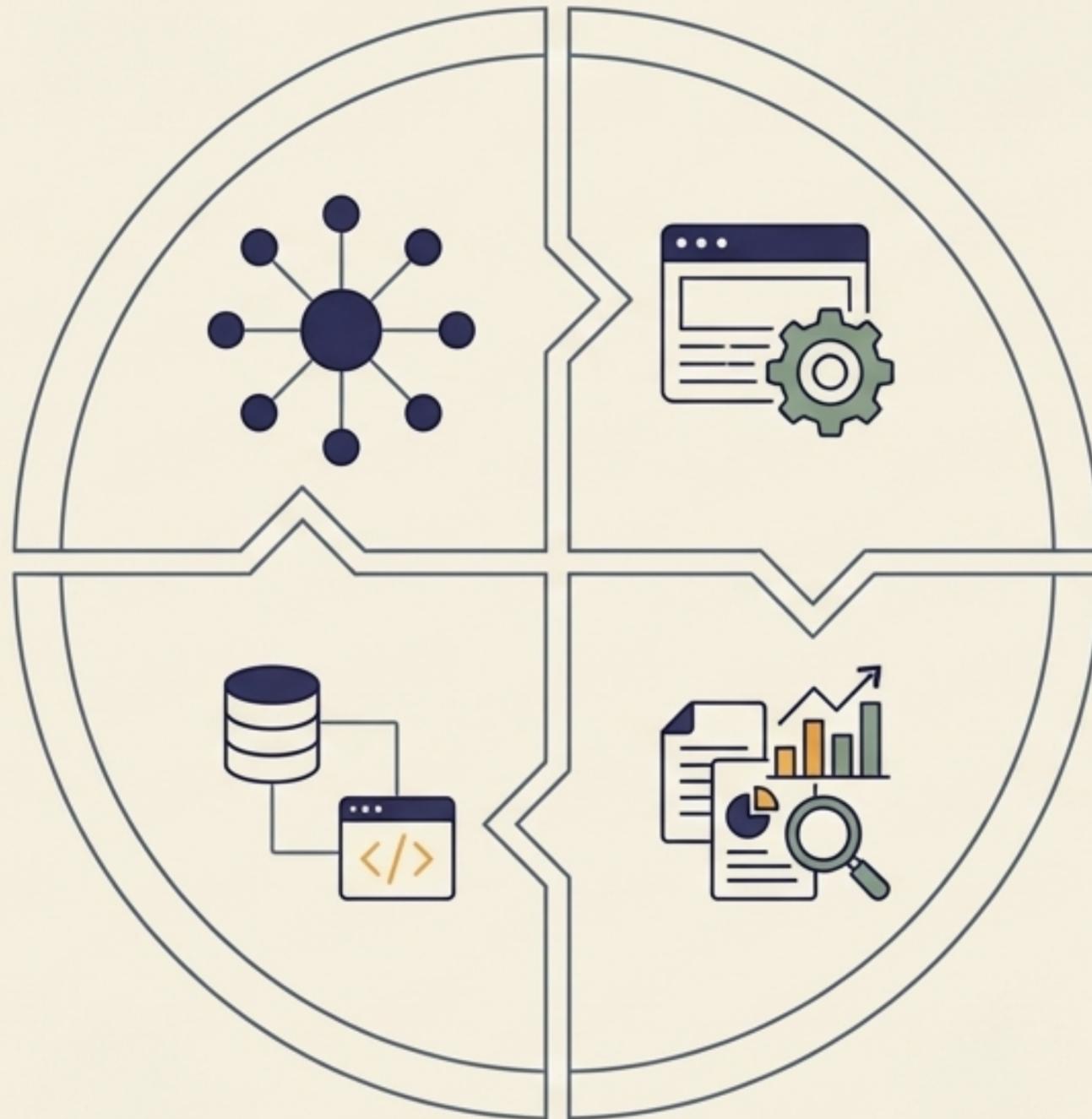
# Manusを駆動する4つのコア・アーキテクチャ

## マルチエージェント構成

複雑なタスクを複数の専門エージェントに分解し、協調して並行処理を実行。

## 高度なツール連携

Webブラウザに留まらず、社内DBやコードエディタなど多様な外部ツールとシームレスに同期。



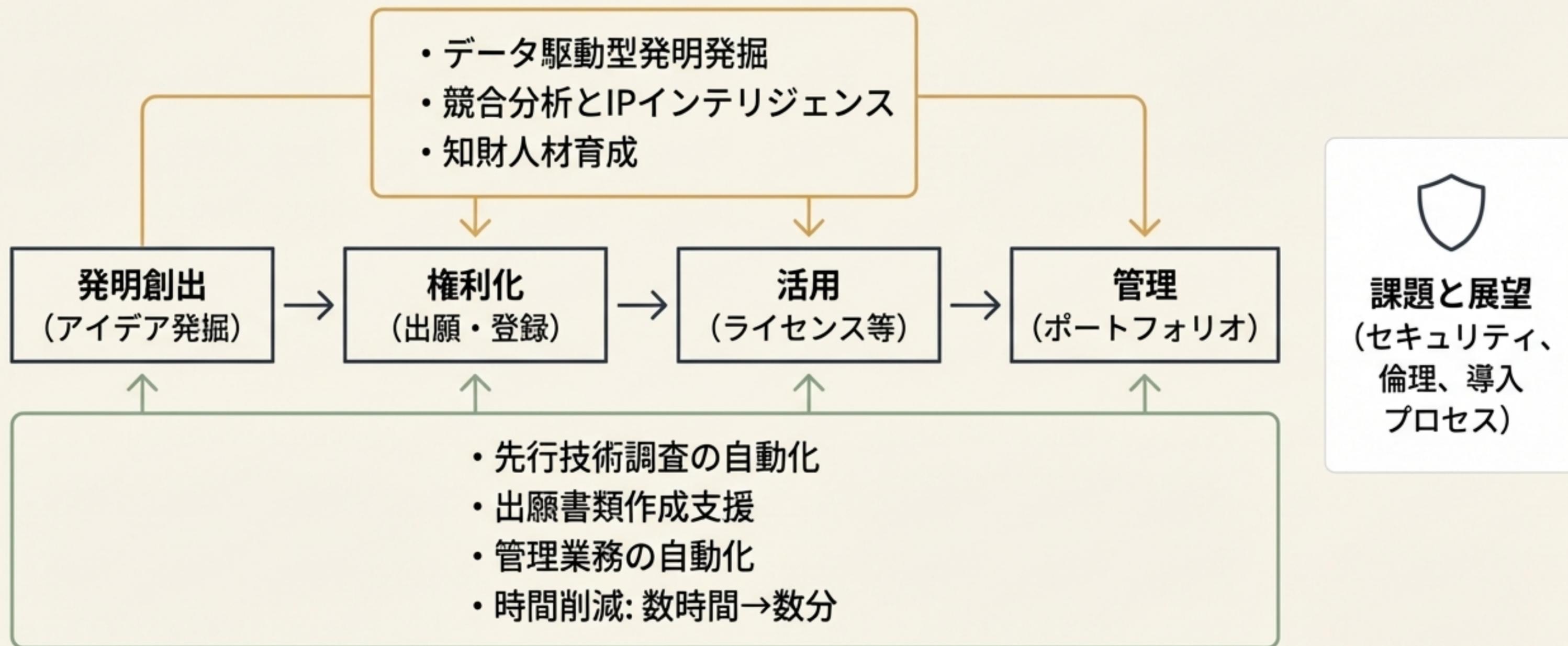
## Browser Operator

ローカルブラウザ内で直接動作。既存のCookieを活用し、厳重なセキュリティ下（CAPTCHA等）のサイトアクセスも自動化。

## 多彩なタスク実行能力

スライド作成、データ分析、市場調査など、単一のテキスト生成を超えた広範なアウトプットを生成。

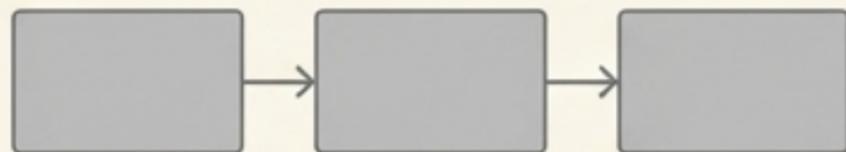
# 全体像：IPライフサイクルへの適用と変革のベクトル



Manusは知財業務を「効率化」で最適化し、「高度化」によって戦略的価値を最大化する。

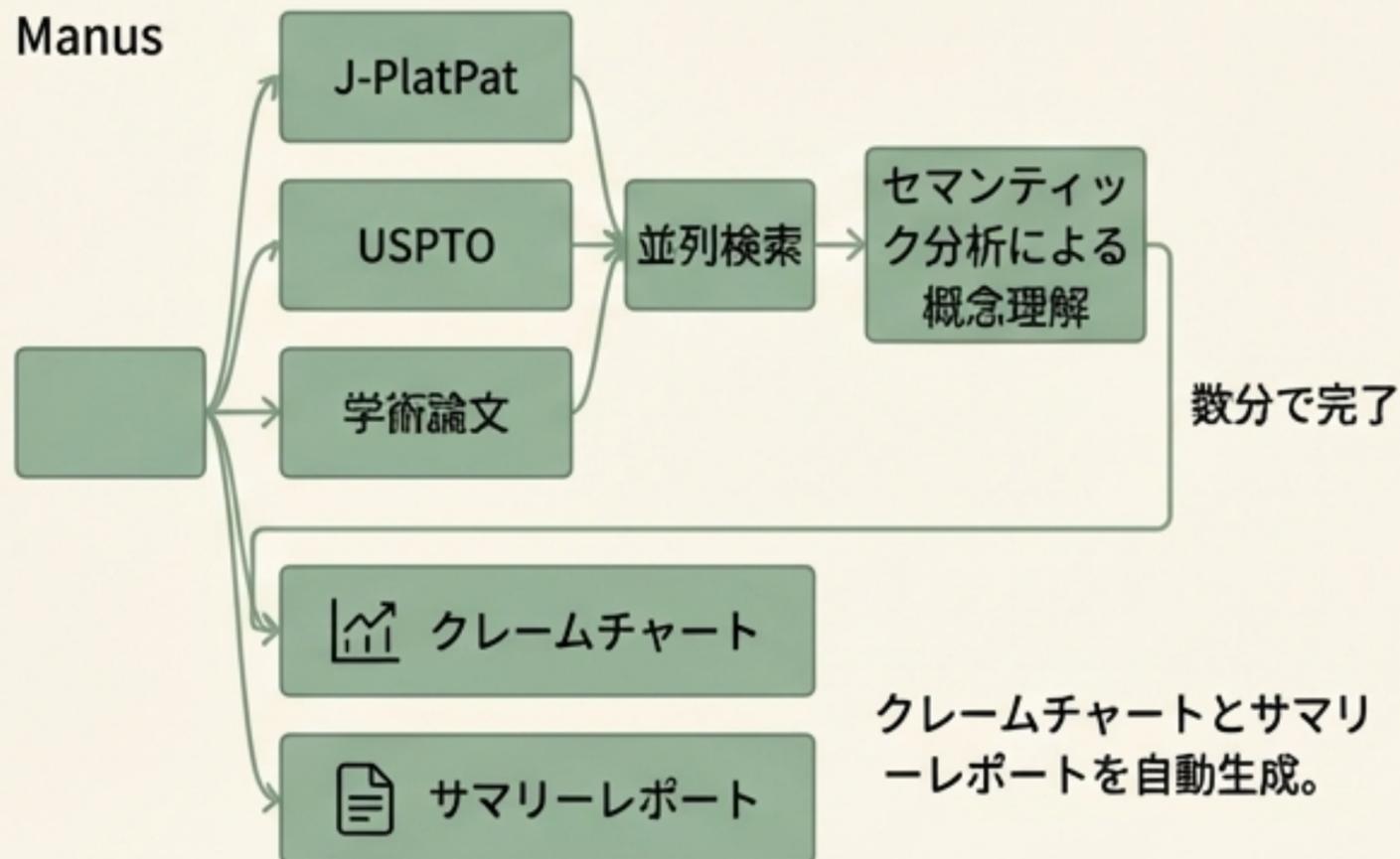
# 【効率化】 先行技術調査の自動化・高速化

従来



従来：担当者が個別検索  
→ キーワード依存  
→ 数時間～数日を消費

Manus



>\_ Manus Command Prompt

発明概念『触覚フィードバックを統合したマルチモーダル AI』に関する先行技術を調査せよ。対象は日米欧の特許公報および主要な学术论文。関連性の高い文献トップ10をリストアップし、本願発明との対比表を作成して報告せよ。

Executing Parallel Search...

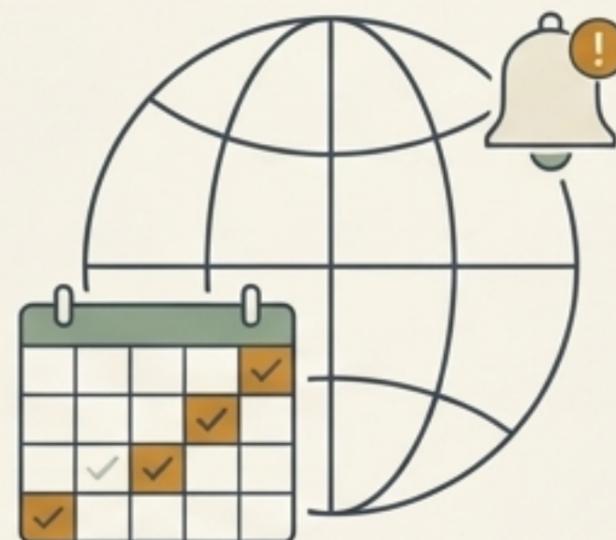
# 【効率化】 出願書類作成とグローバル管理の自動化

## 権利化・中間処理支援



研究データや技術メモから、発明の名称、背景技術、課題、解決手段を**自動生成**。過去のオフィスアクション（拒絶理由通知）データと審査官の傾向を分析し、最適な応答戦略を提案。担当者は「**クレームの戦略的構築**」に専念可能。

## ポートフォリオ・管理業務



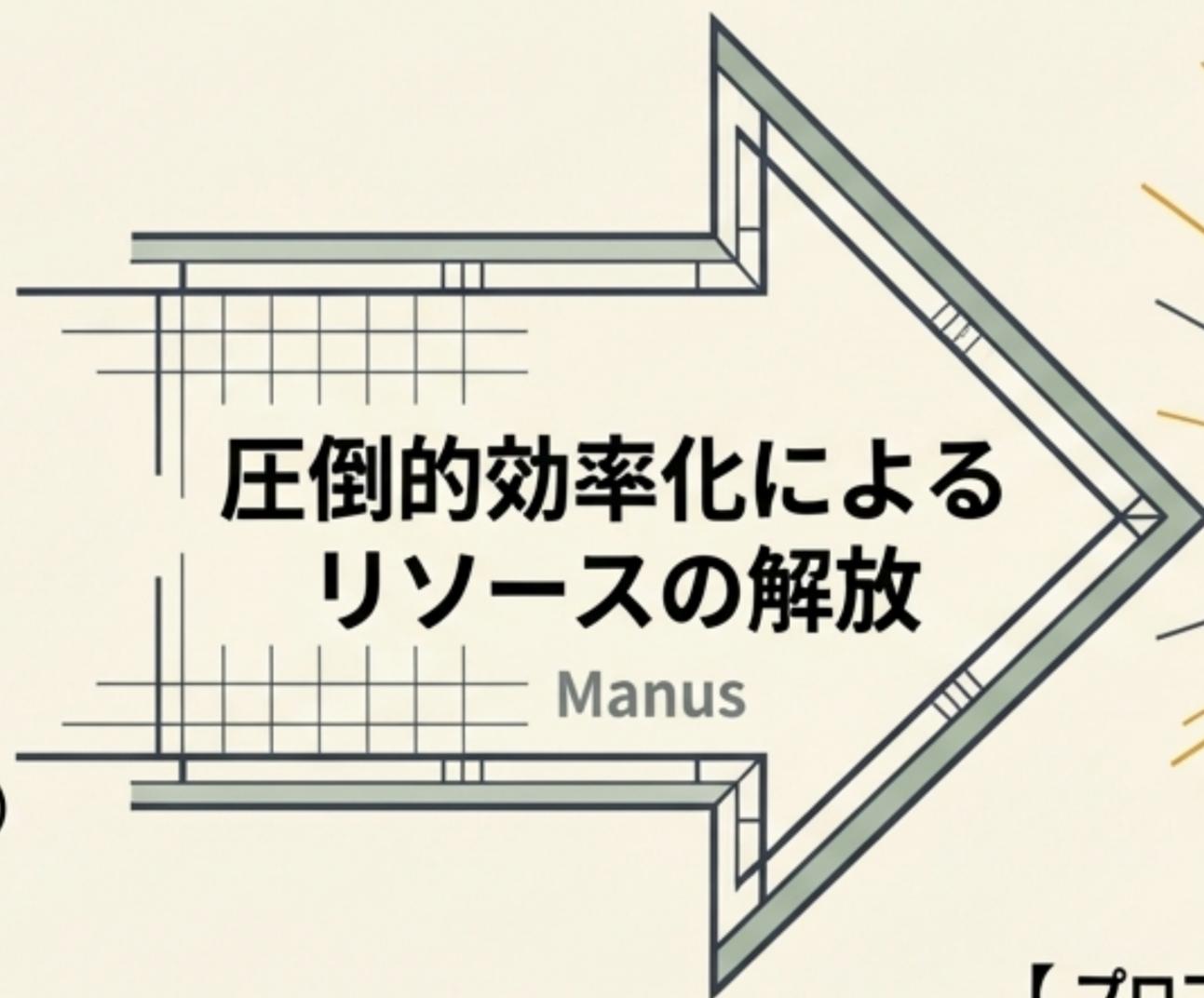
各国特許庁の法改正を常時監視し、コンプライアンスチェックを実行。特許・商標の年金支払い、更新期限を**自動トラッキング**し、**権利失効リスクをゼロにする自動リマインダー機能**。

# パラダイムシフト：余剰時間が生み出す「戦略への飛躍」



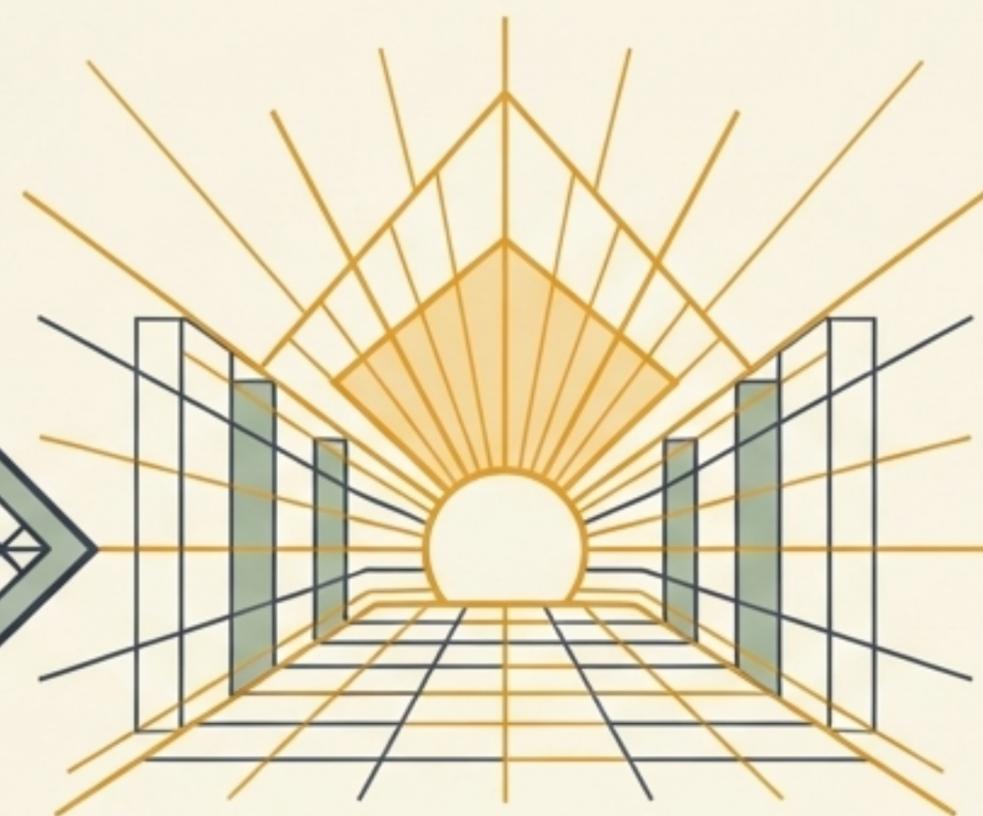
定型業務（調査・事務・管理）  
に縛られた知財部門

【コストセンター】



圧倒的効率化による  
リソースの解放

Manus



事業推進（インテリジェンス・  
発明創出・戦略立案）を牽引

【プロフィットセンター（戦略的ドライバー）】

効率化は終着点ではない。AIに「科学（定型処理）」を任せることで、  
人間はより創造的な「アート（戦略的思考）」に集中する。

## 【高度化】 データ駆動型の発明発掘（受動から能動へ）



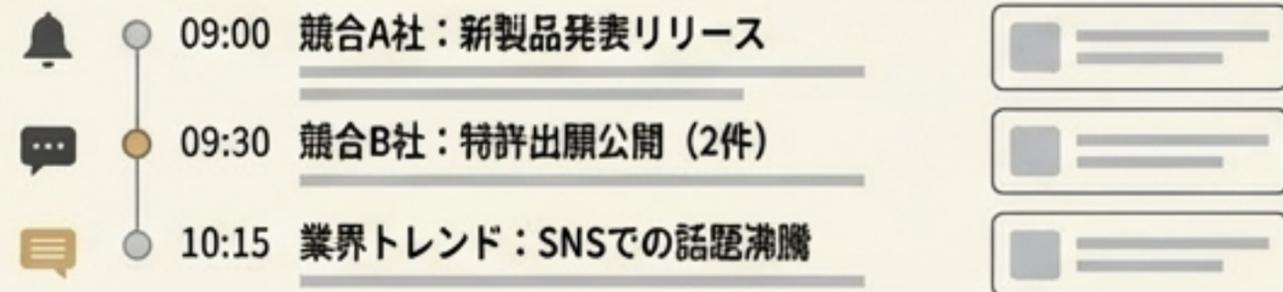
非構造化データの海（日常のコミュニケーションや議事録、Slack/Teams等）

常時スキャン&能動的検知（キーワード、技術的課題、解決策の議論の抽出）

発明の体系化。現場に埋もれていた「価値あるアイデア」を早期発見し、発明提案書の提出を待つ「受動的」姿勢から脱却。

# 【高度化】競合分析とIPインテリジェンスのリアルタイム化

## デイリー・インサイト



競合他社のプレスリリース、SNS、新規特許出願を毎日自動収集・要約し、指定チャンネルへ自動配信。

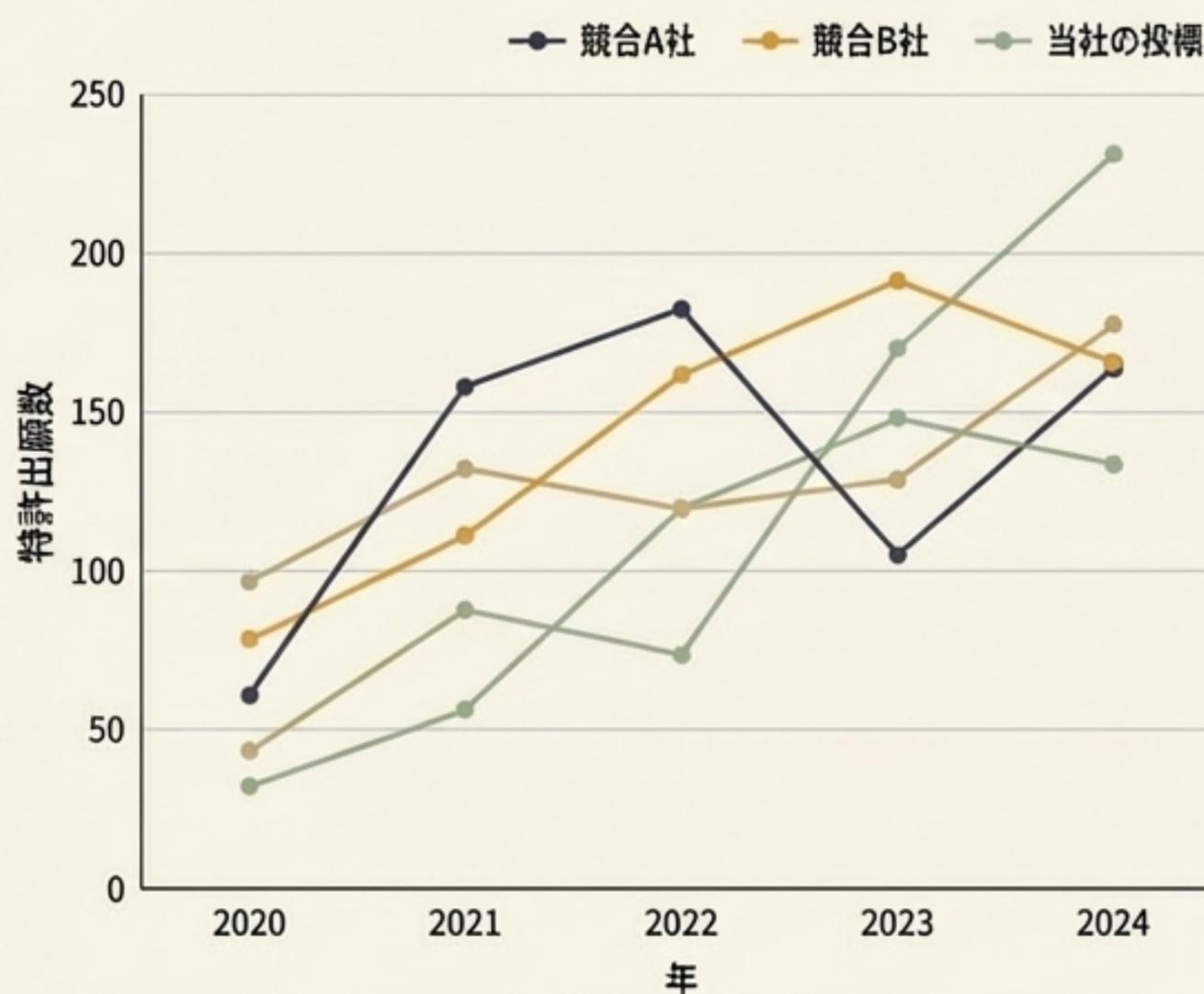
## 自動・機能比較マトリクス

	競合A社	競合B社	自社
機能1	✓		✓
機能2	✓		✓
機能3		✓	✓
機能4	✓	✓	
機能5		✓	✓
機能6	✓	✓	
機能7		✓	✓
機能8			✓



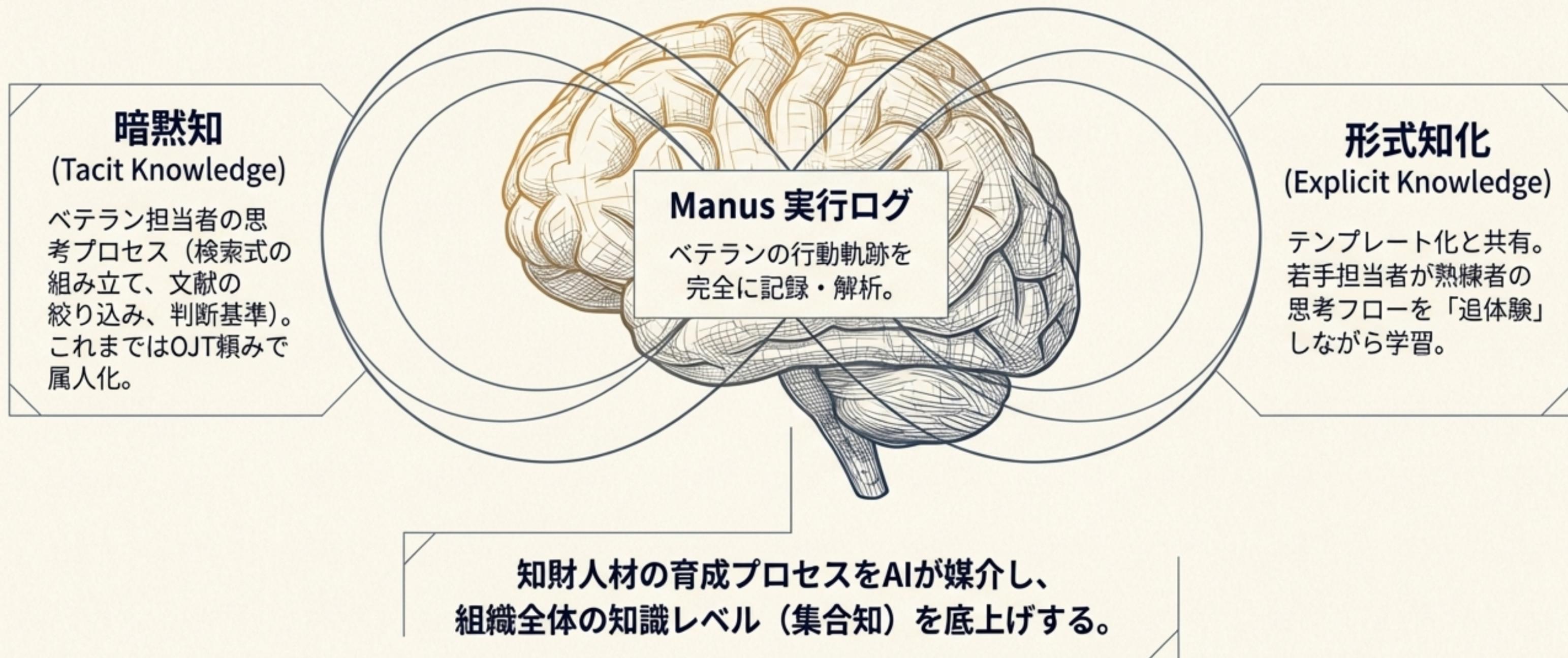
競合の公式サイトから機能や料金を抽出し、自社製品との比較表を自動生成。自社の技術的優位性を瞬時に可視化。

## 技術動向分析レポート



特定分野の特許出願トレンドや引用関係を分析。R&Dの方向性決定やM&Aのターゲット選定を強力にバックアップ。

# 【高度化】 属人化からの脱却とナレッジマネジメント



# 比較マトリクス：Manus導入による知財部門の進化

	伝統的知財業務	AI駆動型知財業務 (Manus)
部門の役割	管理者・事務処理（コストセンター）	戦略的パートナー・クリエイター（プロフィットセンター）
情報収集・発明発掘	受動的（研究者からの発明提案書待ち）	能動的（社内データを常時スキャン・兆候検知）
調査・分析スピード	数時間～数日（キーワード依存の手作業）	数分（セマンティック分析・並行処理による即時抽出）
ナレッジの継承	属人的（長年の経験とOJTへの依存）	組織的（思考プロセスのログ化・テンプレート共有）

# 導入における課題とリスクマネジメント (ガバナンスの確立)



## セキュリティと機密情報漏洩

【リスク】 外部Webアクセスやプロンプトインジェクションによる未公開発明の漏洩。

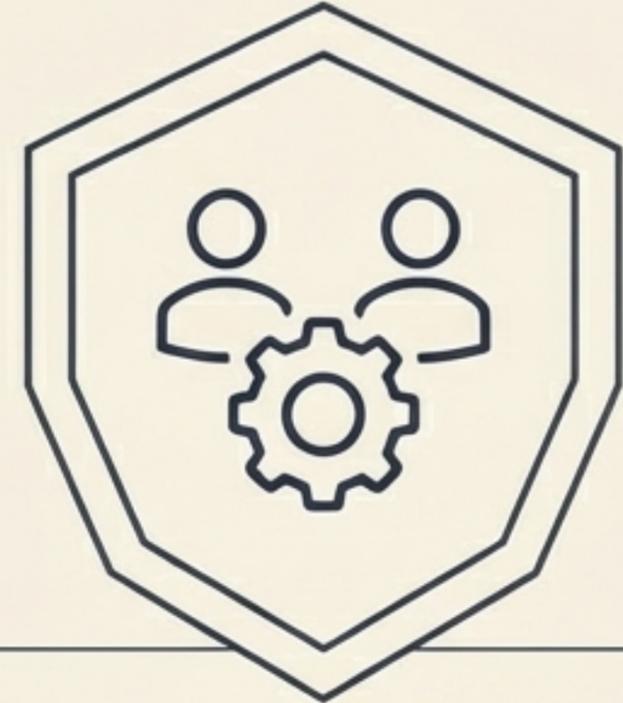
【対策】 厳格なデータガバナンスの整備。アクセス制御と監査証跡（ログ監視）の徹底。



## 倫理的・法的課題

【リスク】 AI生成物の正確性（ハルシネーション）、独創性の判断、著作権の帰属。

【対策】 人間による最終確認（Human-in-the-loop）の義務付け。法的ガイドラインの継続的更新。

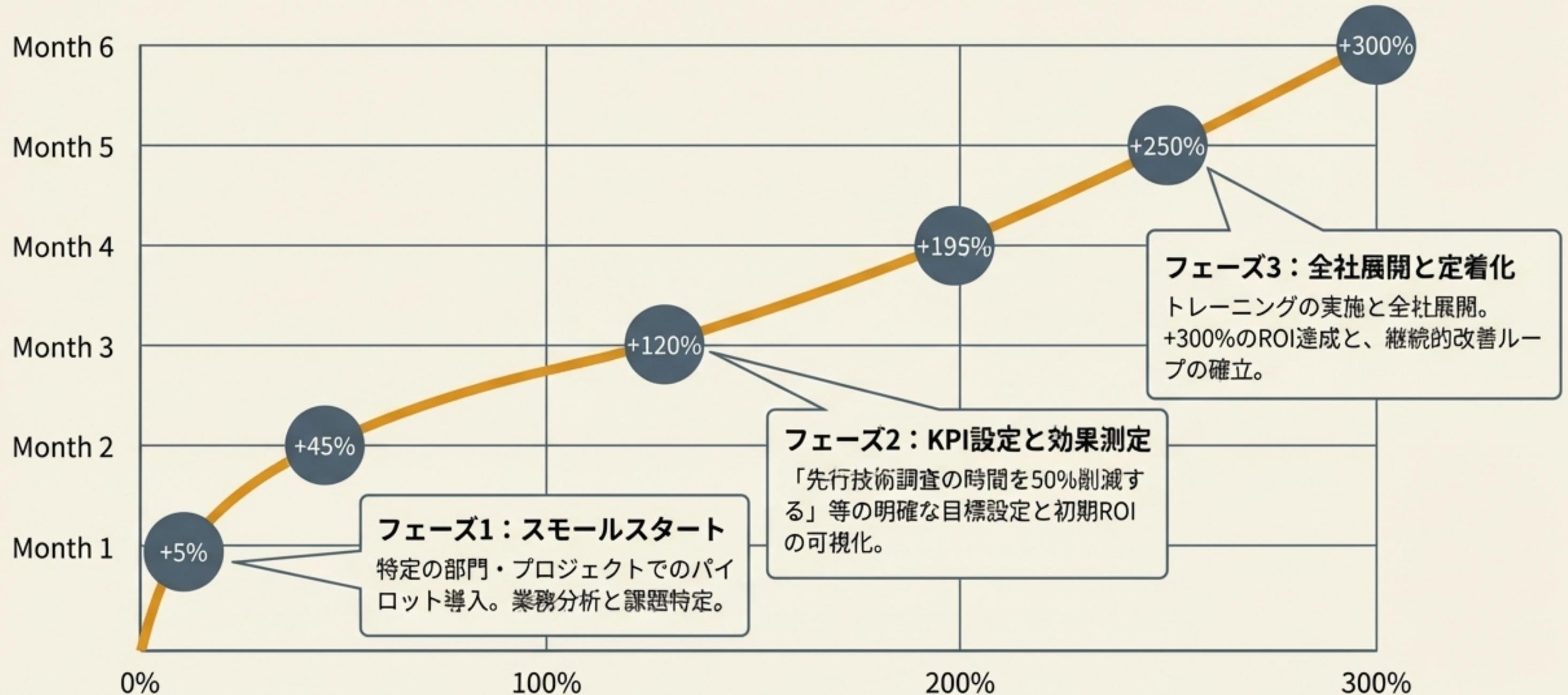


## 組織文化の適応

【リスク】 新技術への心理的抵抗、AIツールに対する過信や誤用。

【対策】 継続的な実践トレーニング。フィードバックループを通じた改善文化の醸成。

# 導入と定着化：6ヶ月のROI成長ロードマップ



# 展望：AI時代における「未来の知財部門」

日本政府が掲げる「知的財産推進計画2025」。AI活用による国際競争力の強化は、もはや国家規模の命題です。今後はManusのような汎用AIと、業界特化型のIP管理プラットフォームがシームレスに融合するエコシステムが形成されます。

**「AIが定型業務という『科学』を完全に担うことで、人間はより創造的で戦略的な『アートとしてのIP業務』に専念する。」**

これが、自律型AIが切り拓く知財戦略の真の到達点です。